

最適環境を探索

荏原とリージョナルフィッシュ（京都市左京区）など計3社は、ITとポンプを活用した魚のスマート陸上養殖の実現に向けた小規模実証を始めた。安定した漁獲量と品質を維持するための最適な環境条件制御の探索や、IoT（モノのインターネット）による省人化に取り組み。実証期間は3年程度を計画し、事業化など次の段階への移行の検討材料にする。

リージョナルフィッシュは、2019年設立の大学発ベンチャー。京都大学や近畿大と業務提携を締結した。荏原のポンプを活用した新規事業の立ち上げをかねて検討している。20年6月にリージョナルフィッシュと業

荏原／リージョナルフィッシュなど

日本を変える 17Goals

▽93 △

スマート陸上養殖を実証

原の杉谷周彦マーケティング統括部次世代事業開発推進部部長は「食糧問題は全世界で出ている。陸上養殖はSDGsの食に関する」

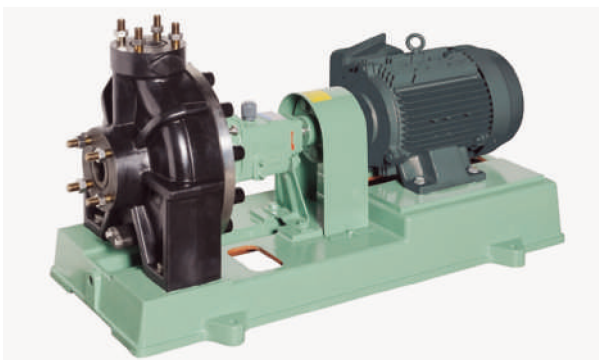
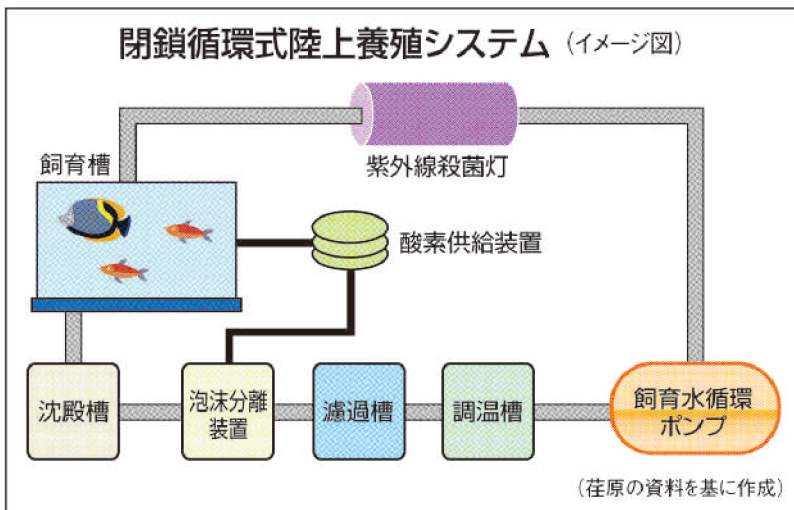
ビジョンに合致しているのでは」と話す。採用されている水の「掛け流し式」が主流。一部の物質は濾過するが、使用水をそのまま海へ流すなど環境問題をはらんでいないとされる。その一方で、荏原やリージョナルフィッシュなどが取り組むのは、閉鎖循環式（RAS）の陸上養殖。閉鎖循環式は、水を循環させ、ろ過装置や脱塩装置などを用いて、水を再利用する。荏原のポンプは、このシステムで重要な役割を果たしている。

閉鎖式採用

養殖方法は現在、サケやマスなど、海水魚の養殖が主流だが、使用水をそのまま海へ流すなど環境問題をはらんでいないとされる。その一方で、荏原やリージョナルフィッシュなどが取り組むのは、閉鎖循環式（RAS）の陸上養殖。閉鎖循環式は、水を循環させ、ろ過装置や脱塩装置などを用いて、水を再利用する。荏原のポンプは、このシステムで重要な役割を果たしている。

ポンプで水循環

技術の確立を目指す。閉鎖循環式陸上養殖は、IT技術のほかに、IoT技術の活用も重要。ポンプで水を循環させ、ろ過装置や脱塩装置などを用いて、水を再利用する。荏原のポンプは、このシステムで重要な役割を果たしている。



荏原のコア技術であるポンプを活用する

荏原のポンプは、このシステムで重要な役割を果たしている。閉鎖循環式は、水を循環させ、ろ過装置や脱塩装置などを用いて、水を再利用する。荏原のポンプは、このシステムで重要な役割を果たしている。